



Preview

107

誠信プレビュー

目次		
折り紙の可能性	小林利子	3
Preview 読者の皆様へ		7
Review 「精神分析」に関する本の重版より		15

小林利子

折り紙の可能性

——エンリッチメント折り紙療法

折り紙と聞いて心理療法との関わりを思い浮かべる人は、読者の中にどれだけいるだろう。私自身にとって折り紙は生活の中に頻繁に登場する「遊び」だった。家族、友人、もちろん一人でも、いつでもどこでもできる身近なもの。正方形でカラフルな教育折り紙や、いせ辰¹の江戸千代紙が、家のどこかに必ずあった。

人生経験を積むなか、いつからか折り紙の療法としての可能性について考えるようになった。子育て、海外生活、日本での「緑は何処へ」リサイクルアート展の主宰とワーキングショップの開催、パレスチナにおける医療支援の一環としてのアートワークショップなどにおいて、折り紙は評判がよかった。折り紙には、紙と人が存在すれば、時と場所を選ばずに皆が参加できる不思議な魅力があるのだ。

折り紙を療法として確立させたいという想いを抱き、アートセラピーを勉強するためにニューヨークに移り住んでからはや10年。アートセラピーの理論を取り入れた独自の折り紙療法を、「エンリッチメント折り紙療法」と名付けて7年目になる。折り紙の「お」の字も知らな

* 1 菊寿堂いせ辰 (<http://www.tctv.ne.jp/miyakyo/tenpo/kikujudoIsetatsu/index.html>)

い様々な文化背景を持つ米国人に、折り図を見ながら折る日本の伝統折り紙とは異なる「Origami」を認識してもらうために、安直につけた名前だったが、最近ではアートセラピストや折り紙愛好家の間ばかりでなく、ニューヨーク在住の日系人会を中心としたコミュニティーや、それ以外の方たちにも、以前より自然に折り紙とセラピーの話を受け入れてもらえるようになった。

今年で3年目を迎えるセントラルパークでのジャパン・デイ^{*2}では、毎年折紙テントを担当しており、今年はユニット折り紙のユニットを参加者に折ってもらい、完成したくす玉を子どもの病院へ寄付するという趣旨のコーナーを設けたところ、あっという間に300名以上の参加があった。知らない者同士が同じテーブルを囲んで一期一会の出会いを楽しむ機会作りに、折り紙が一役買ったと自負している。

ニューヨークでは2001年9月11日のテロ事件以来、PTSDという概念が身近なものとなり、それは私がアートセラピストとして仕事を始めたのと同時期だった。アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁(FEMA)が「プロジェクト・リバティー」と呼ばれる被害者ケアの方針をうちだし、精神医療専門家やカウンセラーが多数求められるなか、アートセラピストとして多方面にわたっての仕事に従事する機会を得た。グラウンドゼロ近隣の高校などの教育機関、病院、コミュニティーセンター、一般対象のイベント、また専門職に従事する人たちのケアのためのアートセラピーなどで、折り紙を利用した。一折りずつ完成に近づいていく折り紙は、トラウマ体験者にとって取り組みやすかったようだ。

* 2 Japan Day @ Central Park (<http://japandaynyc.org/main/>)

現在アートセラピストとして働いているブロンクス精神医療センターでは、折り紙療法が根づき始めている。もちろん伝統的なアートセラピーも取り入れているが、トラウマケアとしてのエンリッチメント折り紙療法は、患者からの人気もあるし、スタッフのためのケアにも一役買っている。

私がアートセラピーを学んだニューヨーク大学のアートセラピー修士学科は、米国におけるアートセラピーの草分け的存在であり、アートセラピスト必読の著作でも有名なイーディス・クレーマーが設立したもので、入学した当時、彼女はまだ教鞭をとっていた。オーストリア生まれのイーディスは、フロイトの精神分析とその後の精神分析学を基に、アートを制作する創造過程そのものが持つセラピー性を学生に説いていた。言葉だけに頼るのではなく、頭と体を同時に使うことで効果がもたらされる治療法だ。

アートセラピーを勉強し始めた当時、折り紙をアートセラピーに利用するという考え方は一般的ではなかった。折り紙がなぜセラピーになるのか、という説明に四苦八苦することもあったが、学科長のアコスタ郁子とイーディスは、理解を示してくれた。

教育折り紙のイメージや、折り図に頼って紙を折るのは創造性が無いという印象が強いようだが、発想を変えて自分勝手に折っても折り紙である。白紙の上に絵を描き出すように、まっさらな紙に折り目を加えて形を創造していく行程は、私たちが紙に出会い紙との関係性を構築することだといえる。エンリッチメント折り紙療法はアートセラピーの根幹に流れている、絵画表現の上手い下手を問題としない精神を取り入れて

おり、折り紙は指先を直接使う作業という意味でも理にかなっているのだ。

ウィニコットが生前最後の著作、『遊ぶことと現実^{*3}』の中でも繰り返し述べているように、セラピストはクライアントを、遊べない状況から遊べる状況へ導く手助けをすることが重要である。折り紙はまさにセラピストがクライアントにとって安全で心地よい環境を整え、一手紙を折るという連続する関係性を通し、心地よい体験や物を創造するプロセスを提供する。その結果として、その時その場を象徴化した移行対象物である完成した折り紙が、セラピストとクライアントとの間に目に見える実体として残る。

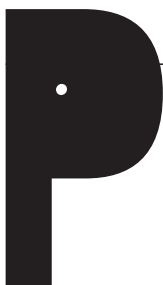
最近の PTSD/ComplexPTSD の考え方は、脳科学の発展とともにますますアートセラピーをはじめとした、各種のクリエイティブ・アーツセラピーの可能性を確実なものにした。そのなかで、数百年かけて人から人へと伝承されてきた折り紙には、歴史の篩^{ふるい}にかけられなお残ってきた、「創造活動」としてのセラピー性があると信じている。そんなことを考えつつ本業である病院勤務のかたわら、博士課程に在籍しながら、更なるエンリッチメント折り紙の普及のために、折り紙を使った認知力評価尺度の開発に挑戦している。

(こばやし としこ / アートセラピスト、折り紙研究家)

* 3 Winnicott, D.W. (1971) *Playing and Reality*. London: Routledge. (橋本雅雄 訳 (1979) 遊ぶことと現実 岩崎学術出版社)

読者の皆様へ

誠信書房出版案内



小社の出版物は全国の主要書店の店頭にてお求めいただけます。
店頭がない場合には注文にてお取り寄せください。

直接送付をご希望の場合は、お名前ご住所（お届け先）、電話番号、ご注文の書名、冊数を明示のうえ、電話、FAX、e-mail (sei@seishinshobo.co.jp)にてお申し込みください。代金引換郵便にてお送りいたします。送料は1回につき一律200円です。お受け取りの際に代金（価格合計+消費税+送料）を郵便局係員にお支払いください。

公費でのご購入などで、代金引換郵便が不都合な場合には、ご一報ください。

小社の新刊書および既刊書は、インターネットのホームページでもご案内しておりますので、ご利用ください。

本誌をご希望の方は、直接小社にお申し付けください。定期的にお送り（無料）いたします。

〒112-0012 東京都文京区大塚3-20-6

電話 03-3946-5666 Fax 03-3945-8880

<http://www.seishinshobo.co.jp>

2010年3月25日刊行予定

今、心理職に求められていること

医療と福祉の現場から



下山晴彦・村瀬嘉代子 編著

社会の幅広い分野で活躍する心理職への期待を、医療と福祉の現場で働く、日・米・英の11名の専門家が実体験にもとづいて記述する。複雑になる社会の要望に応えられる心理職とはどのようなものか……、児童精神医療・がん医療・児童相談所・家族会など、幅広い分野の声をまとめた。患者とのやりとりや、福祉行政で働く人びとの声など、実地から得られた情報が豊富に含まれ、心理職に「今」求められている技能を把握できる。

-
- 1 今、日本の心理職に求められていること
 - 第I部 米国と英国における心理職の役割と教育
 - 2 医療における心理職の教育と訓練
—— 米国からの報告
 - 3 子どもの支援における心理職の役割
—— 英国からの報告
 - 第II部 医療に関わる立場からの心理職への期待
 - 4 児童精神医学の現場から心理職への期待
 - 5 がん医療の現場から心理職への期待
 - 6 リエゾン医療の立場から心理職への期待
 - 7 患者と医療者のコミュニケーション支援の現場から心理職への期待
 - 第III部 児童福祉に関わる立場からの心理職への期待
 - 8 児童相談所の現場から心理職への期待
 - 9 児童福祉行政の立場から心理職への期待
 - 10 家族の立場から心理職への期待
 - 第IV部 行政との協働における心理職の役割
—— 社会的養護の現場を中心に
 - 11 子どもの福祉における心理専門職の現状と課題
 - 12 社会的養護の課題と心理職への期待
 - 13 対談 社会的養護における心理職の役割—— 行政との協働に向けて

しもやま はるひこ：東京大学大学院臨床心理学コース教授

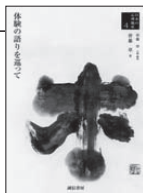
むらせ かよこ：北翔大学大学院教授、大正大学客員教授

A5判 268頁 / 定価 2940円 (本体 2800円 + 税)

ISBN978-4-414-40057-1

2010年1月30日刊行

日本の心理臨床 4 体験の語りを巡って



皆藤 章 著

心理臨床に人間の営みを視野に入れることの必要性和現代的意義を取り上げ、ひとりの心理臨床家にもたらされた体験の語りを巡って論じる。熊野の古道からアウシュヴィッツさらに、グラウンドゼロまで直に歩いた体験の語りを静謐な文章で綴る。クライアントを知る、語る、理解する「在りよう」を探究するプロセスとしての「体験」を重視した考察が随所に光る。師河合隼雄に捧げるオマージュ。

序 説

第Ⅰ部 人間の営みと心理臨床

第一章 心理臨床家としての在りよう

心理臨床家としての自分とは何か／「理解」とは何か

第二章 人間の営みへの関心

心理臨床とフィールドワーク／物語の生成と覚醒／臨床的創造力／わたしのフィールドワーク／宮本常一との出会い

第三章 不治の病との対峙

現代医療を巡って／「死」を生きる／宗教性／苦海浄土

第Ⅱ部 心理臨床と物語

第四章 物語の生成・覚醒

物語の現在／アクティヴ・イマジネーション／結びにかえて

第五章 心理臨床の実践におけるあるクライアントの物語

物語を生きるということ／物語の概要／物語を生きる過程
／物語を巡って／クライアントの現在

第六章 体験の語りを巡って

ロサンゼルスからの帰国／帰国後の教育分析／終わりから始まりへ

おわりに

かいとう あきら：京都大学大学院教育学研究科教授、文学博士、臨床心理士

A5判 228頁 / 定価 2835円 (本体 2700円 + 税)

ISBN978-4-414-41317-5

2010年2月25日刊行

かかわり合いの心理臨床

体験すること・言葉にすることの精神分析



森 さち子 著

年齢、性別、病態が異なる様々な臨床素材を抽出し、クライアントとセラピスト間に生起する言葉にならない現象を浮き彫りにする。心理臨床の現場でますます重要になってきている相互交流、それを理解するための間主観性理論への格好の入門書となっている。

第I章 臨床体験

——〈体験の現れ〉が相互交流に与えるインパクト

- 1 ふと口をついた言葉
- 2 交流がもてないクライアントとかかわりをもとうとする際に生まれた非言語的にかかわり合い
- 3 生気情動を通してのかかわり
- 4 話し方の間をめぐるのかかわり
- 5 自覚されてなかった気持ちへのかかわり
- 6 受け入れがたい情緒をめぐるのかかわり／他

第II章 心の起源

- 1 心理療法過程における二つのテーマの相克
- 2 心の自閉的起源——歴史的展望
- 3 心の対話的起源——新しい展開

第III章 情動調律

- 1 関係性に生起する「情動調律」
- 2 「情動調律」の背景となる発達観——「自己感」の発達
- 3 体験としての情動調律

第IV章 体験の現れと言葉化

- 1 〈体験の現れ〉について
- 2 〈体験の現れ〉と情動発達の関係

第V章 臨床から理論へ・理論から臨床へ

- 1 臨床素材の検討
- 2 心理療法過程における相互交流

もり さちこ：慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室准教授

A5判 206頁 / 定価 2625円（本体 2500円＋税）

ISBN978-4-414-40056-4

心理・精神療法ワークブック



長尾 博 著

心理療法の基本を、代表的な12種のワーク演習を通して解説。Ⅰ理論編では、心理療法の基礎をはじめ各種心理療法の特徴を解説。Ⅱワーク編では、各ワークの特長や実施する目的、適用できるクライアント、ふり返り時のポイントを明示。Ⅲアドバンス編では、症状別の心理療法実践のポイントなど、心理療法のエッセンスを紹介した、心理療法家を目指す方や臨床家のための演習用テキスト。

I 理論編

1章 心理療法とは

2章 心理療法の歴史

3章 各種心理療法の概説

精神分析法／来談者中心療法／行動療法／ユング派心理療法／森田療法／ゲシュタルト療法／解決志向療法

4章 心理療法を始める前と後についての事項

始める前の事項／行った後の事項

5章 心理療法の基本的技法

自我の強さとは／関係療法／支持療法／表現療法／訓練療法／洞察療法／自我の強さと基本的技法との関係

II ワーク編

自律訓練法／なぐり描き／コラージュ／風景構成法／箱庭／インテーク面接／医療面接／家族面接／エンカウンターグループ／回想法／認知行動療法／フォーカシング／ワークを通じたあなたの特徴

III アドバンス編

心理療法家の職種について／心理療法家の成長過程／心理療法家のモデルについて／心理療法を行ううえでの四つのキーワード／年齢別の心理療法実践のポイント／心の問題別の心理療法実践のポイント／行動化について／解離について

ながお ひろし：活水女子大学文学部教授

A5判 198頁 / 定価 2310円（本体 2200円 + 税）

ISBN978-4-414-40055-7

2010年3月20日刊行予定

折衷的カウンセリング

ARPI モデルのすべて



ギャリー・ハーマンソン 著 塩見邦雄 監訳

カウンセリングの統合とは如何にあるべきかを説き、ニュージーランドでカウンセリング研修プログラムとして使用されているベストセラーの翻訳。さまざまな心理療法の導入から終結までに、介入手順を体系化したARPIモデルを当てはめる「折衷主義」の新機軸。各章末の治療事例で、このモデルのトータルな流れと実践方法を把握できる。

第Ⅰ部 折衷の枠組み

- 1 統合モデル
- 2 クライエントの経験
- 3 カウンセラーのかかわり
- 4 ARPI モデルの背景

第Ⅱ部 ARPI のプロセスと技法

- 5 かかわり技法
- 6 応答技法
- 7 意識化技法
- 8 手ほどき技法

第Ⅲ部 戦略を始めること

- 9 思考志向の戦略
- 10 感情志向の戦略
- 11 行動志向の戦略

付録——二つの事例

スクールカウンセリング／キャリアカウンセリング

Gary Hermansson：ニュージーランド・国立マッセイ大学教授を経て、ニュージーランド・オリンピック強化委員

しおみ くにお：兵庫教育大学名誉教授，相愛大学教授，相愛大学人間発達研究所所長

A5判 324頁 / 定価 3990円（本体 3800円＋税）

ISBN978-4-414-41439-4

2010年3月12日刊行

ストリート・ウォッチング

路上観察と心理学的街遊びのヒント



小林茂雄 + 東京都市大学小林研究室 著

街の風景は人々がいてこそ魅力的で、美しいものになる。建物や道路をいくら整備しても生き生きとした風景は表われず、人間だけを見ていてもその面白さには限界がある。街と人の両方を一緒に眺めたときに、それまで見えなかった相互作用的な関係が表われ、イマジネーションを刺激する風景が出現してくる。人のいる風景の楽しみ方、観察すべきポイントと穴場、他者を利用した楽しみ方などを紹介し、街歩きに新しい発見と喜びを見つける手助けをする。

第1章 かんさつの方法

- 観察時の心得
- 時間を絞って観察する
- 年齢と場所の相性を探る
- 姿勢に着目する／他

第2章 おすすめ観察スポットの条件

- 似たもの同士が群れる場所
- サブストリートの魅力／他

第3章 他人が持つ無意識の影響

- 伝染する他人の仕草
- 三大欲求が人の行動を支配する
- 集団心理が街を変える
- 人を惹きつける行列の魔力

第4章 人を動かす街の風景

- においから想像してしまう
- 寝ころびたくなる／他

第5章 心理学的街遊び

- 今日を占う
- ファッションチェック
- アテレコをつける／他

こばやし しげお：東京都市大学建築学科准教授

A5判 158頁 / 定価 1365円 (本体 1300円 + 税)

ISBN978-4-414-30176-2

2010年4月上旬刊行予定

作業療法士のための 非構成的評価トレーニングブック

4条件メソッド

京極 真 著

作業療法分野で初めて開発された、非構成的評価の「記述力」と「吟味力」を格段に向上させる画期的技術の紹介。4つの条件を当てはめることで、学生からベテラン OT まで、確実に非構成的評価力が身につくトレーニングメニュー付き。構成的評価のみに頼りがちな現状を超えるための方法論的基盤を、多くの課題を通して完全独習できる。

特講 1 日目 今なぜ非構成的評価なのか

- 作業療法評価には構成的評価と非構成的評価がある
- 非構成的評価は記述のされ方に問題がある

特講 2 日目 4条件メソッドとは何か

- 非構成的評価によってクライアントの変化をとらえた評価結果と認められる四つの条件
- 4条件メソッドの基礎
- 4条件メソッドとは何か
- 疑問に答える

特講 3 日目 4条件吟味法のトレーニングメニュー

- トレーニングメニューの使い方
- トレーニングメニュー
- トレーニングを終えた後にすること

特講 4 日目 4条件記述法のトレーニングメニュー

- トレーニングメニューの使い方
- トレーニングメニュー
- トレーニングを終えた後にすること

付録 非構成的評価の参考文献と体系的な構成的評価

- 4条件メソッドの基礎になった文献
 - 非構成的評価の実施に役立つお勧め文献
 - 代表的な（使える）構成的評価の紹介
-

きょうごく まこと：社会医学技術学院作業療法学科専任教員，作業療法士

B5判 190頁 / 定価 2835円（本体 2700円 + 税）

ISBN978-4-414-80204-7

レビュー 誠信書房出版案内

R

テーマ

「精神分析」に関する本の重版より

1999年刊行

クリニカル・クライン

クライン派の源泉から現代的展開まで

R.D. ヒンシェルウッド 著 福本 修・木部則雄・平井正三 訳
クライン派の基本的な考え方を臨床的な視点から包括的に解説。
クラインの重要な概念はすべて症例を引用して解説されており、
読者はそれらを具体的に理解することができる。

A5判 314頁 / 定価 4410円 (本体 4200円 + 税)

ISBN978-4-414-40272-8

2001年刊行

治療の行き詰まりと解釈

精神分析療法における治療的／反治療的要因

H. ローゼンフェルト 著 神田橋條治 監訳

精神分析療法のなかで必然的に起こってくる行き詰まりをどの
ように打開すればよいかについて、きわめて臨床的・実践的に
解説する。

A5判 350頁 / 定価 5040円 (本体 4800円 + 税)

ISBN978-4-414-40282-7

1985年刊行

図説 臨床精神分析学

前田重治 著

精神分析の理論やフロイトの系譜およびフロイト以後に発展し
た理論などを141の図や表でわかりやすく説明した、いわば
「目で見る臨床精神分析学」。

A5判 194頁 / 定価 3150円 (本体 3000円 + 税)

ISBN978-4-414-40144-8

seishin preview 107
2010年3月15日発行

株式会社 誠信書房
〒112-0012
東京都文京区大塚 3-20-6
電話 03-3946-5666
FAX 03-3945-8880
<http://www.seishinshobo.co.jp/>

Paper: グラフイーエコ